

第三のイタリア“ボローニャ&モデナ”にみる創造都市形成の示唆

吉村 英俊

I はじめに

1990年代半ば、わが国がバブル崩壊の中で地域経済の浮揚策を必死に模索しているとき、多くの公的機関が挙って参考にしたのが、中小企業の勃興により経済の活性化を図っていた第三のイタリアであった。この第三のイタリアとはイタリアの中央に位置する地域であり、今回の調査対象であるエミリオ・ロマーニャ州やその南方のトスカーナ州などを指す。この第三のイタリアの特徴は、専門化された分野において高度な技術を有した中小企業が集積し、これら企業がネットワークを形成して、適宜柔軟に仮想企業体を構築し、案件に対応するものである。また起業家精神に富み、地元志向が強いことである。現在においても、これら地域は経済的、また文化的に豊かな地域として国内外に知られ、都市政策の方向性を示す成功事例の一つとして多くの著書等で取り上げられている。

地域経済を発展させるためには、地域企業のイノベーションを促進し、新たな事業や産業が次から次に起こらなければならない。そして、そのためには創造性豊かな都市を形成することが重要になる。今回、創造都市として著名なボローニャ及びモデナを視察し、創造都市形成に向けた方途を示唆するものである。

《ヒアリング機関》

■ボローニャ

- City of Bologna; www.comune.bologna.it
- Promo Bologna; www.promobologna.it
- Industrial Heritage Museum; www.Commune.bologna.it/patrimonioidustriale

■モデナ

- ProMo; www.promoline.it
- Officina Emilia; www.officinaemilia.unimo.it



出典 : <http://ja.wikipedia.org>



《エミリア・ロマーニャ州の主要都市》

出典 : <http://sollevantetour.com/emiliaromagna.html>

II ボローニャの概況

1. ボローニャの産業

ボローニャ県 (Province of Bologna) は人口 95 万人、面積 3,562km² を有している。その県庁所在都市であるボローニャ市 (Comune of Bologna、人口 37 万人、面積 141km²) は、ランボルギーニやドゥカーティといった企業が発祥した地であり、また世界有数の包装機械のメッカであるなど、工業が盛んな地域である。一方、市内には美術館・博物館が 37、映画館が 50、劇場が 41、図書館が 73 カ所もあるなど、文化施設が充足しており、ユネスコの創造都市にも認定されている。また、ボローニャ大学は 11 世紀に創立されたヨーロッパ最古の大学であり、現在も 92,000 人 (全人口の 1/4) の学生が在籍している。食文化においても、“ボローネーゼ” といった独特のソースを創り出すなど、美食の都として知られている。近郊には緑豊かな自然が豊富にあり、生活の質 (Quality of Life) を享受できる地域である。



ネプチューンの噴水
(街の至る所に若者が屯している)



街中の路地
(食材を販売している店が多い)

ボローニャ県は、一人当たりの GDP が 34,332 ユーロで、イタリア国内で第二位にランクされ、失業率も 2.9% と全国平均 (6.8%) を大きく下回るなど、経済的に豊かな地域であるといえる。県内には 88,000 の事業所があり、そのうち製造業は 12,000 を数え、その比率は 13.3% と全国平均 (12.3%) を 1 ポイント上回る。輸出額は 97 億ユーロに及び、過去 5 年間で 20% 以上増加している。なお、輸出先はドイツが最も多く、以下 USA、フランス、スペイン、英国、ロシアと続き、その数は 200 カ国を超える。

表 1 ボローニャ県の主な経済指標 (2006)

	ボローニャ県	イタリア全体
人口	954,682	59,131,287
一人当たりの GDP (euro)	34,332	24,924
失業率 (%)	2.9	6.8
事業所数 (製造業の事業所数)	88,202 (11,705)	5,158,278 (636,219)
輸出額 (億 euro)	97	3269

出典：“Bologna System 2008”, Promo Bologna

高度な技術を有した製造業が多く集積することから、特許の権利化率は全国第一位（1,000事業所当たり 10.4 件）であり、また、これら技術志向の強い企業を対象にしたサービス業が過去 10 年間に於いて、事業数で 83%、就業者数で 33%増加している。同様に、クリエイティブ・クラス 1 の全就業者数に占める割合が 18%から 30%に増加しており、このことが起業家の創出に大きく貢献しているという。

ボローニャ県の経済を牽引する主要産業は、次の 5 つの産業分野である。

- a) 自動車 (Motor)
- b) 包装機械 (Packaging Machinery)
- c) 電子 (Electronics)
- d) 食料品 (Agro-Food)
- e) ファッション (Fashion)

表 2 主要産業の特徴

自動車 Motor	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所数：140、就業者数：8,000、輸出額：12.4 億ユーロ ・ ランボルギーニやドゥカーティ、マラゲーティといった高級車やスポーツカーメーカーが集積している ・ ”Motor Valley”を形成し、企業の集積はもとより、レース場や博物館が整備され、モーターショーのようなイベントが多数開催されている
包装機械 Packaging Machinery	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所数：216、就業者数：6,300、輸出額：20 億ユーロ ・ 生産数の 80%が輸出用であり、世界シェアは 9.5%を超える ・ 当地の包装機械の主な用途は、食料品、医薬品、化粧品、タバコなどである ・ 実業学校と研究機関が重要な役割を担っている
電子 Electronics	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所数：1,500、就業者数：16,000、輸出額 10.2 億ユーロ ・ 主な用途は、一般機械、自動車、計測機器、医療機器などである
食料品 Agro-Food	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所数：1,400、就業者数：9,500、輸出額：2.3 億ユーロ ・ 民間企業と生協などの組合がネットワークを構築している
ファッション Fashion	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所数：1,320、就業者数：9,870、輸出額：8.7 億ユーロ ・ ”The Centergross”というヨーロッパ最大の流通センターを有している

出典：”Bologna System 2008”, “Spring in Bologna”, Promo Bologna

以上の 5 つの主要産業に加え、次の 4 つを次世代産業として位置づけている。

- a) 物流 (Logistics)
- b) 健康&医療 (Health & Medical)
- c) 創造産業 (Creative)
- d) 付加価値サービス (Value-Added Service)

表 3 次世代産業の特徴

物流 Logistics	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所数：3,500、年間貨物取扱量：482.5 万トン ・ 地理的に国内及び西ヨーロッパの結節点に位置する ・ 交通基盤を整備し、“Fright Village”を形成、国内有数の国際物流企業が本社もしくは事業所を置く
健康&医療 Health & Medical	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公立病院数：15、民間ヘルスケアセンター数：14、ベッド数：7,000 ・ 人工骨の生産は国内シェアの 80%を占有する
創造産業 Creative	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所数：150 ・ 主な分野として、映画・ビデオ制作 ・ 映画フィルムの修復で有名な“Cineteca”がある ・ ユネスコの創造都市に音楽の分野で認定されている
付加価値サービス Value-Added Service	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所数：24,000、就業者数：73,000 ・ 主要な分野として、IT、国際化支援、調査・コンサル、ファイナンス、広告 ・ 付加価値額：75 億ユーロ

出典：“Bologna System 2008”, “Spring in Bologna”, Promo Bologna

2. 産業支援機関の例

(1) Promo Bologna

Promo Bologna は、ボローニャ都市圏の経済振興と企業誘致を目的にする NPO であり、2004 年に設置され、現在 7 名の専任スタッフが在籍する。主な出捐者はボローニャ県、ボローニャ市、商工会議所であり、それぞれ 32% 出捐している。

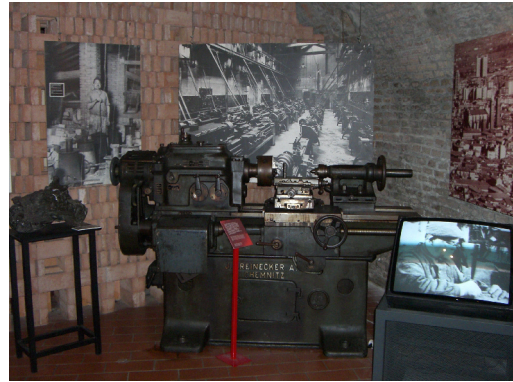
Promo Bologna の具体的な活動としては、イベントやカンファレンスの企画・運営、マスコミやインターネット、出版物などを活用したプロモーション、新規産業振興施策の試行、さらに海外からの投資家に対して、企業や工場団地などの紹介、税制や労働コストなどのさまざまな情報の提供、行政機関をはじめとする関係機関との調整などを行っている。また、地域経済に関する調査研究をコーディネートしたり、自ら実施している。

(2) Industrial Heritage Museum (伊名：Museo del Patrimonio Industriale)

Industrial Heritage Museum は、工業専門学校である“Aldini-Valerani Institute”に併設するかたちで 1981 年に開設された。この博物館には 3 つの原則²⁾がある。一つ目が当専門学校の授業の一環で、2 ヶ月毎に展示が変わること、二つ目が多くの展示物が動くこと、そして三つ目が、博物館が当専門学校の卒業生の同窓会館の役割を担っていることである。三つ目が最もユニークであり、当地の産業基盤を人材の面から支える原動力になっている。つまり、同校の卒業生の多くは地元の職人企業³⁾に就職するが、彼ら／彼女らは足繁くここに通って、互いに親睦を図り、情報を交換するなど、博物館を基軸に重厚なネットワークを形成している。また、同校には技術研究所も併設されたおり、卒業生を対象にしたセミナーや研修が頻繁に行われ、当地の職人は生涯ここで勉強することになる。



産業遺産博物館の外観



旧式の旋盤

Ⅲ モデナの概況

1. モデナの産業

モデナ県 (Province of Modena) は人口 63 万人、面積 2,690km² を有している。その県庁所在都市であるモデナ市 (Comune of Modena、人口 18 万人、面積 182km²) は、世界的に著名な高級車フェラーリやマセラッティの本社がある一方、世界遺産に認定された大聖堂を中心に中世の面影を残す新旧の調和がとれた美しい小規模都市である。



モデナ市庁舎とグランデ広場



旧市街地の昼間の光景

ここではモデナ大学 (The University of Modena and Reggio Emilia) のリナルディ博士 (Dr. Alberto Rinaldi) の資料⁴⁾をもとに、モデナ県の産業を紹介する。

モデナ県の経済は、一人当たりの GDP をみる限り、1950 年から 2000 年まで順調に成長してきたといえる。1950 年から 2000 年までの 50 年の間、イタリア全体では 6 倍に増えたのに対して、モデナ県では 10 倍に増えている。1950 年にイタリア国内で、モデナ県は 40 位と中位⁵⁾であったが、1963 年には 24 位に、1974 年には 7 位に、そして 1980 年には第 1 位になった。その後、1983 年まで第 1 位を維持し、それ以降も常時 10 位以内に入っている。なお、現在の一人当たりの GDP は、34,110 ユーロ (2007) であり、イタリア国内平均 (25,921 ユーロ) の約 1.3 倍となっている。ボローニャ同様に活気があり豊かな地域であるといえる。

産業構造をみると、先進国の一般的な都市同様に、第一次産業が著しく減少する一方、第 3 次産業が増加しており、産業のサービス化が進んでいることが分かる。なお、その中でもモデナ県は第二次産業の割合が比較的高く⁶⁾、製造業が盛ん (後述) である。

表 4 産業構造（就業者数、％）

	1951年	1961年	1971年	1981年	1991年	2001年
第一次産業	56	34	19	10	6	4
第二次産業	25	41	50	53	48	45
第三次産業	19	25	30	37	46	51

出典：A. Rinaldi, “The development of the Modenese economy in historical perspective 1945-2005”

モデナ県の経済は、次の 5 つの産業が牽引している。

- a) 食料品（Food and Beverages）
- b) 繊維・衣料（Textiles and Garment）
- c) 機械金属（Metal-Engineering including Motor-Vehicles）
- d) タイル（Ceramic Tiles）
- e) バイオメディカル（Biomedical Products）

これらの産業の集積度をみてみると、機械金属が事業所数、就業者数、売上高のいずれにおいても 4 割前後を占有し高く、輸出額においては 50%を超えていることが分かる。また、繊維・衣料とタイルが就業者数において 15%前後占有しており、雇用創出の面で貢献していることが分かる。

なお、機械金属産業は、当地においてすべての産業の基盤であり、高度化を支える役割を担っていると考えられている。つまり、機械金属産業は工作機械や機械器具といった生産手段を提供し、その結果、企業間の研究や開発が誘発され、イノベーションを創出しているという。

表 5 製造業の集積状況（2004、（ ）内は構成比）

	事業所数	従業員数	売上高*(1)	輸出額*(2)	輸出比率(%)
食料品 Food and Beverage	1,433 (12.0)	10,624 (8.7)	4,390 (17.3)	558 (6.0)	12.7
繊維・衣料 Textiles and Garment	2,967 (24.8)	17,142 (14.1)	2,479 (9.7)	734 (7.9)	48.0
機械金属 Metal-Engineering	4,400 (36.8)	51,209 (42.0)	10,335 (40.9)	4,965 (53.6)	48.0
タイル Ceramic Tiles	315 (2.6)	18,805 (15.4)	3,494 (13.8)	1,960 (21.1)	56.1
バイオメディカル Biomedical Products	102 (0.9)	4,255 (3.5)	734 (2.9)	311 (3.3)	42.4
その他 Others	2,741 (22.9)	19,935 (16.3)	3,908 (15.4)	751 (8.1)	19.2
合計	11,958	121,970	25,339	9,307	36.7

出典：モデナ商工会議所 *単位：百万ユーロ

製造業を企業規模の観点からみてみると、従業員数 50 人未満の小規模企業が過半数を超えており、中小企業が地域産業を牽引していることが分かる。とくに繊維・衣料の分野では小規模企業の割合が 8 割を超え、一方、タイルやバイオメディカルの分野では大企業の割合が高い。なお、機械金属は平均的である。

表 6 製造業の規模 (2004、%)

	従業員数		
	49 人以下	50～499 人	500 人以上
食料品 : Food and Beverage	60.8	25.5	13.7
繊維・衣料 : Textiles and Garment	81.5	18.5	-
機械金属 : Metal-Engineering	55.2	31.8	13.0
タイル : Ceramic Tiles	16.1	39.4	44.5
バイオメディカル : Biomedical Products	25.2	39.9	34.9
その他 : Others	68.9	31.1	-
製造業全体 : Total	54.5	30.7	14.8

出典：モデナ商工会議所

モデナ県は、県庁所在都市のモデナ市を中心に 47 の市 (Comune) で構成されている。県政府は、それぞれの地域が比較優位な特徴を持ち、連携することで県全体として競争力を確保しようとしている。



出典：A. Rinaldi, "The development of the Modenese economy in historical perspective 1945-2005"

図 1 モデナ県内の産業分布

グローバリゼーションの観点からは、東欧や中国といった低賃金国の影響により、繊維・衣料の分野で小規模企業の経営が悪化する一方、タイルやバイオメディカルの分野では、これらの地域に新たな市場を求めるなど、先導的な企業が現われている。機械金属産業においては、その影響は限定的であるとはいえ、カスタム化と短納期化がこれまで以上に求められるようになっている。

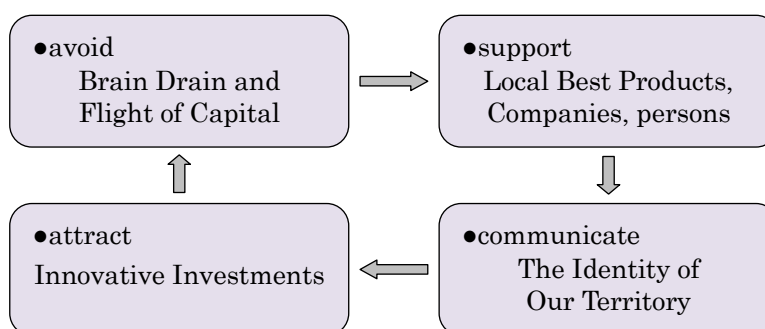
また、自動車部品産業においては、隣国のドイツをはじめ、先進諸国に輸出を増やしているものの、多国籍企業に買収される動きもあるという。

2. 産業支援機関の例

(1) ProMo “Promotion Modena Economy”

ProMo はモデナ県の地域開発を推進する第三セクターであり、1987年に設置された。現在6名の専任スタッフを抱え、年間の事業費は150万ユーロ（2002）に及ぶ。株主はモデナ県、モデナ市、商工会議所を中心に、職業組合、地元銀行など、24の団体・機関で構成される。

ProMoの活動は、地域経済のニーズの把握・分析、プロジェクトの企画・コーディネート、新しいサービスの開発・展開の3つに大別される。具体的には、若年起業家のマーケティング及び技術開発支援、物流拠点整備による小規模流通業者の支援及び環境負荷の低減などを行政機関や大学などと連携して行っている。



出典：A. Zini, “Agency promoting the local development of the Province of Modena”

図2 ProMoの目標と好循環

(2) Officina Emilia

Officina Emiliaは当地の基幹産業である機械金属産業の振興を図るために、モデナ大学がコーディネートするプロジェクトであり、2005年5月に設置された。現在、専任職員3名、兼任職員4名（大学教員）が在籍している。

Officina Emiliaでは10代の青少年を対象にした教育プログラムの開発、指導者の育成方法（教授法）の開発などを行っている。現在、これら青少年や指導者が実際に手で触って学ぶことができる教育施設兼工作機械の博物館を整備している。また機械金属産業の発展の要因をイノベーションの視点から解明したり、若者の職業観を調査するなど、研究にも余念がない。



郊外の工場団地
（自動車の整備関連工場が多く集積）



Officina-Emiliaが整備中の若者を対象にした
機械産業の教育施設兼博物館

IV 都市政策の方向 ー都市機能・特性の多角形化ー

今回イタリア訪問中に友人や街中の人に尋ねてみて、彼ら／彼女らからみてもボローニャやモデナがあるエミリオ・ロマーニャ州一帯は、生活の質（Quality of Life）が高いところであるという。ボローニャでインタビューした若者等は、ボローニャが好きで、ずっとここに住み続けたいという。

ではなぜ、ボローニャやモデナの一帯がこんなにも評価が高いのか、その理由をインタビューや文献調査等の結果をもとに整理してみると、幾つかの要因に集約される。

①強固な経済基盤（産業集積）

当地は古くは絹織物の産地として栄え、当時世界有数の貿易都市であったベネチアまでシルクロードを形成していた。この絹織物の技術が、現在の自動車や包装機械などの機械金属産業の礎となり、強固なモノづくり基盤を形成している。さらに近年は、イタリア国内及びヨーロッパの結節点であるという地理的優位性を生かして交通インフラが整備され、ロジスティクス産業が集積している。このように従来からのモノづくりにロジスティクスの機能が加わり、産業基盤がより強固になり、豊かな地域経済（高収入、低失業率など）を生み出している。

②充実した文化教育環境

世界的に著名なボローニャ大学や USA・中国の大学院が所在するなど、学術研究機関が集積し、国内外から学生や研究者が集まってくる。ボローニャは人口 37 万人であるが、そのうち 9.2 万人が学生であり、市街地は若者で溢れ、喧騒の中にエネルギーを感じることができる。

また中世から育まれた古い歴史と文化があり、美術館・博物館、図書館、劇場などの文化施設が数多く点在する。昨今、経営の観点から高い入館料を徴収するところが多い中、当地では無料で利用することができる。なお、これら施設の運営はボランティアに負うところが大きく、市民の意識も高いといえる。芸術・文化に関するイベントも街のいたるところで開催されている。このことにより、若者やアーティストを引き付け、美術館などの文化施設との間に相乗効果を生み出している。このように文化教育環境が充実し、人々の生活に潤いを与え、創造性を醸成している。



モランディ美術館のホール
（市民の交流の場になっている）

③豊かな食と自然

温暖な気候や緑豊かな自然は多様な食材を生み出し、食生活を豊かにしている。ボローネゼソースをはじめ、ハム、チーズ、ワインなど当地の食材は世界的に有名である。

④便利なアクセス

ボローニャもそここの都会ではあるが、鉄道を利用すれば 1 時間余りでミラノに行くことができ、最先端の情報に接することができる。また首都のローマへも 2 時間半と近く、十分に日帰りが可能な位置にある。さらにボローニャ空港からは NY やロンドンといった都市に直行便が就航しており、ミラノやローマを経由することなく世界中に行くことができる。

以上を総括してみると、これら地域は経済的に豊かに生活できる要素と精神的に豊かに生活できる要素がバランスよく満たされていることが分かる。このことから都市政策の方向として、都市はある分野に秀でて差別化する一方、都市の機能・特性を構成するすべての要素をあるレベル以上まで持ち上げること、言い換えれば、より大きな「正多角形」をつくる必要があるといえる。

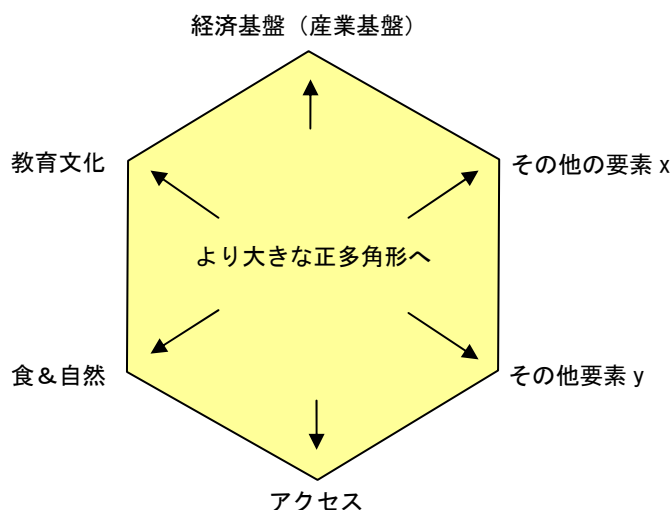


図3 都市機能の“正多角形”

最後にイタリアを語る上で忘れてはならないのが、「自己性の強さ」である。イタリアでは個人的あるいは創造的な人は自ら会社を興したいと考えており、起業家精神が非常に旺盛である。彼ら／彼女らは卒業後、一旦通常の企業に就職して経験を積んでから起業するのが一般的であり、途中で事業を絶たんで一般の企業に就職しなおすことも想定内のこととして考えている。なお、大企業に就職する人は独創性が乏しい人であると考えられているようであり、あまり良い印象を持たれていない。いずれにしても、人生のイニシアチブは本人がしっかり握っており、日本人とは大きく異なる。地域の主体は住民にあり、イタリアではこれらの個性と自己性の強い彼ら／彼女らが街づくりをリードしている。このことは公的機関が多額の資金を投じて都市政策を講じても、そこに住む人々が自立していなければ、効果を生まないということを示唆している。

むすびにあたって、都会的な生活を営みながら、生活環境が豊かな地域に住みたいというのは、先進国の中産階級の共通認識のようであり、結局そういった地域が今回のポローニャやモデナであり、アデレードであり、福岡なのだろう。

〔注〕

- 1) “Bologna System 2008” , Promo Bologna において、クリエイティブ・クラスは「Architects, engineers, lawyers, business people, managers, designers, artists」としている。
- 2) 井上ひさし (2008)、pp59-63
- 3) 職人企業は、製造業で 22 名以下、伝統産業で 40 名以下の小規模企業をいう。
- 4) Alberto Rinaldi (2008)
- 5) 1950 年当時、イタリア国内には 92 の県 (Province) が存在していた。
- 6) 参考までに、福岡県の 3 産業の占有率はそれぞれ 4%、24%、70%である。また工業都市といわれている北九州市は 1%、28%、70%、浜松市は 4%、39%、56%となっている。

〔参考文献〕

- 1) Jacobs, J., “The Death and Life of Great American Cities, Random House, 1961 (黒川紀章「アメリカ大都市と死と生」鹿島出版会、1977)
- 2) Landry, C., “The Creative City” , Earthcan, 2000 (後藤和子「創造的都市」日本評論社、2003)
- 3) Rinaldi, A., “The development of the Modenese economy in historical perspective 1945-2005” , The University of Modena and Reggio Emilia, 2008
- 4) 岡本義行「イタリアの中小企業戦略」三田出版会、1994
- 5) 「イタリア型中小企業に関する調査研究 ～第三イタリアの実態～」財団法人中小企業総合研究機構、1997
- 6) 佐々木雅幸「創造都市への挑戦」岩波書房、2001
- 7) 額田春華「産業集積における「柔軟な連結」の達成プロセス」一橋大学大学院商学研究科博士学位論文、2001
- 8) 八幡一秀「イタリアの中小企業政策と産地比較 ―地域自治体の支援政策を中心に―」中央大学経済科学研究所紀要第 32 号、2002
- 9) 池下譲治「イタリアにおける人材開発型の産業クラスター戦略」ジェトロ海外経営情報レポート第 5-2 号、2003
- 10) 佐々木雅幸、総合研究開発機構「創造都市への展望」学芸出版、2007
- 11) 井上ひさし「ボローニャ紀行」文藝春秋、2008、pp59-63